

令和3年度地域・企業共生型ビジネス取組事例集

ひがし北海道インターローカルプレイヤーズブック

～越境し、創造する地域の付加価値～



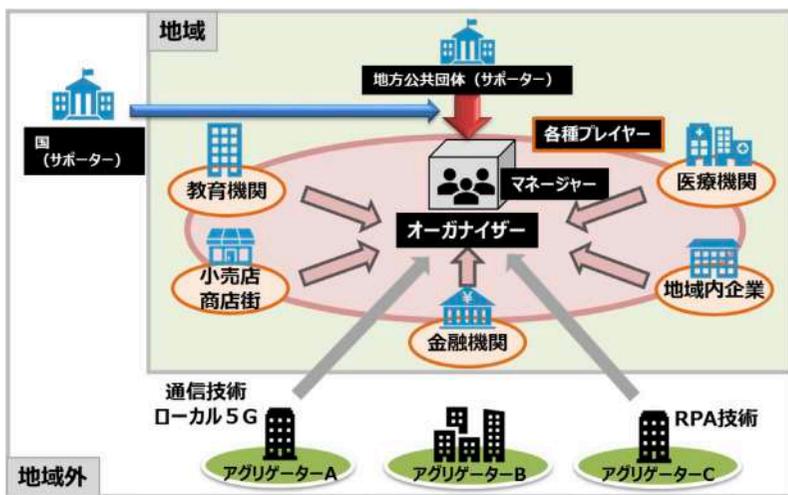
経済産業省
北海道経済産業局
Hokkaido Bureau of Economy, Trade and Industry

ひがし北海道インターローカルプレイヤーズブック

人口減少や少子高齢化、地域・社会課題の多様化が進む中で地域が持続可能な形で発展し続けるために、さまざまなステークホルダーが連携した上で、地域・社会課題解決と収益性との両立を目指す（「地域・企業共生型ビジネス」と呼びます）取組が求められています。この事例集は、ひがし北海道を主なフィールドとして、「地域や業種、世代を横断的に連携（＝インターローカル）」することで、地域の新たな付加価値作りをしているローカルプレイヤーをご紹介します。プレイヤーのさらなる発掘やネットワーク化の促進、活動の認知度アップを図り、本道における地域・企業共生型ビジネスのさらなる具体化や、その推進体制であるMAP'S+O（※1）の形成促進につなげる目的で作成したものです。

MAP'S+Oとは

経済産業省が設置した「地域の持続可能な発展に向けた政策在り方研究会」が令和2年9月にとりまとめた報告書では、地域の持続的な発展の担い手をそれぞれの頭文字をとってMAP'S+Oという概念で整理し、そうした連携体制を構築していくことが重要であるとしています。



マネージャー <M>	地域の持続的発展に取り組む中核的な人材
アグリゲーター <A>	広域に対し、地域の持続的発展に資する製品又はサービスを提供する組織
プレイヤー <P>	マネージャー及びオーガナイザーに対し協力・連携する地域内外の組織・人材
サポーター <S>	オーガナイザーへ支援を行う地方公共団体
オーガナイザー <O>	マネージャーが所属し、アグリゲーター及びプレイヤーと連携して取組の中心となる組織

（出典：「地域の持続可能な発展に向けた政策在り方研究会」報告書）

https://www.meti.go.jp/shingikai/sme_chiiki/jizoku_kano/20200930_report.html

目次

オーガナイザー / プレイヤー / マネージャー

- 03 クスろ | 釧路市 |
- 05 FIELD NOTE | 釧路市 |
- 07 合同会社Hokkaido Design Code | 釧路市 |
- 09 十勝シティデザイン株式会社 | 帯広市 |
- 11 とかち熱中小学校 | 帯広市 |
- 13 公益財団法人とかち財団 | 帯広市 |
- 15 tokachi field action Lab | 帯広市 |
- 17 株式会社ロジカル | 北見市 |
- 19 株式会社道東テレビ | 津別町 |
- 21 Casochi合同会社 | 滝上町 |
- 23 Ynet. | 標津町 |

アグリゲーター

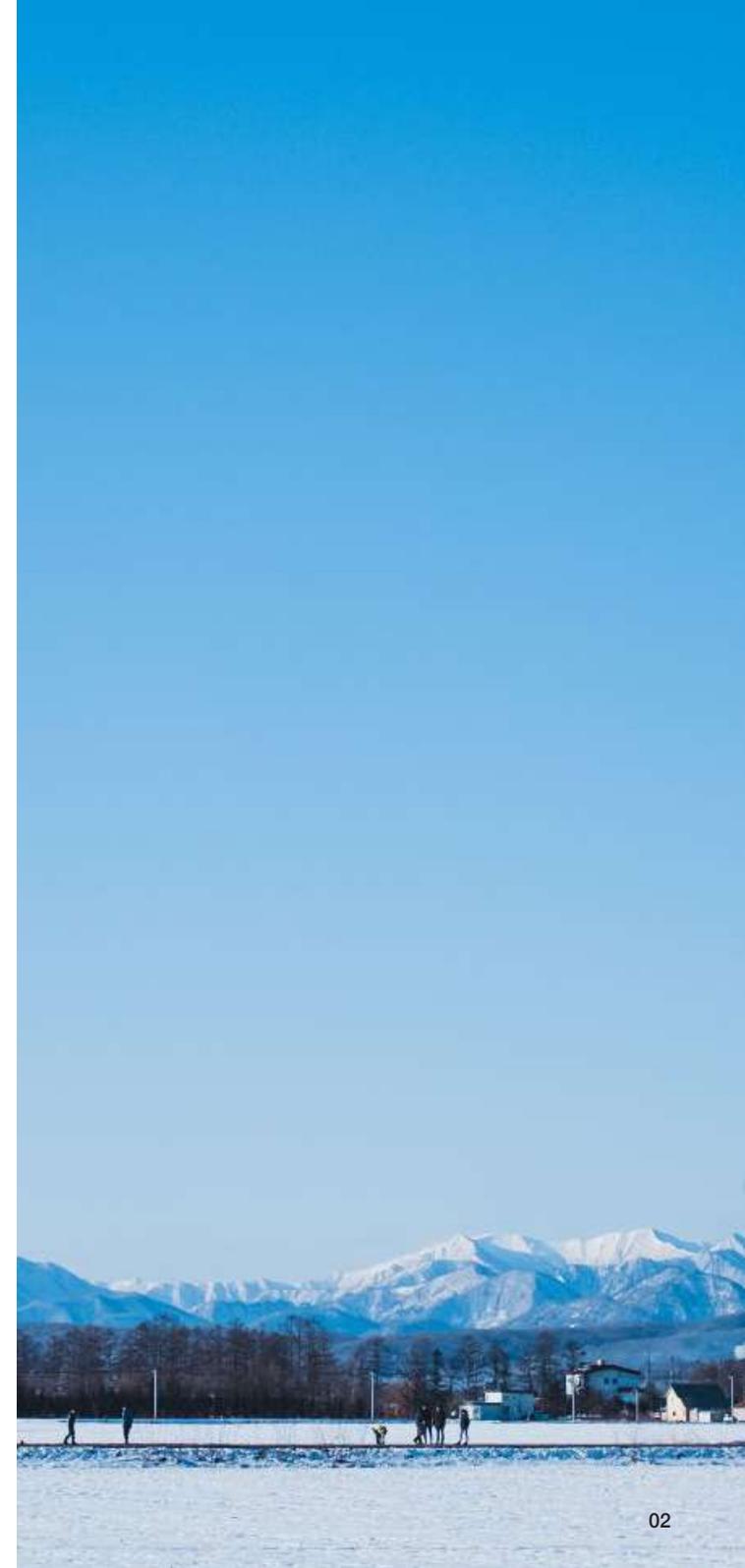
- 25 クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 ローカルチーム | 札幌市 |
- 27 株式会社ACT NOW | 札幌市 |

サポーター

- 29 釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz | 釧路市 |
- 30 サテライトオフィス北見 | 北見市 |

制作

- 31 一般社団法人ドット道東 | 北見市 |



クスろ



くしろをクスッと。くしろでクスッと。

「くしろにもっとユーモアを！」をビジョンに活動する市民団体。釧路地域のヒト・モノ・コトをこれまでにない目線・角度で再定義することで、クスッとしてしまうコンテンツの発信や講演活動を実施。地域資源を愉快地にデザインしたグッズを制作し、釧路地域の新たなお土産として釧路管内の観光施設や地元スーパーで販売している。クスろが発信するコンテンツやプロダクトを通じて、少しでも楽しい・おかしい・面白い気持ちになってもらえたら嬉しい。そんな想いを持つメンバーが、自身の生業の傍らで活動している。2019年11月、「未来をつくる若者・オブ・イヤー」内閣府特命担当大臣賞受賞。

代表

名塚 ちひろ

釧路市生まれ。デザイナー、ディレクター、カメラマン。富士通株式会社にて、社会インフラシステムのデザインや新規ビジネスのプロモーションに携わる。2014年にクスろを設立。2016年にUターン後もデザイナーやディレクターとして活動する傍ら、釧路市阿寒町にゲストハウスコケッコをオープン。



くしろにもっとユーモアを！

地域の面白さを自分たちの言葉や行動、そしてデザインで表現したい、そんなメンバーが集まったクスろは、ワクワクすることが大好き。釧路に感じていた不便さや物足りなさは、個性と特徴の裏返し。それを活かして、もっと釧路で愉快地暮らしていこうと考え始めたクスろの活動。釧路にしかない個性と特徴に、自分たちなりのユーモアを混ぜ込む。そうすればきっと、釧路はワンダーランドに見えてくる。

プロジェクト



クスろのおふざけキーホルダー

SNSや釧路地域に住む有志から募ったアイデアを、クスろが得意とするユーモアで表現した釧路の新しいお土産品。中でも地元蕎麦店の竹老園 東家総本店のオリジナルメニュー「無量寿」のキーホルダーは、「無量寿」そのものの認知度向上にも大きく貢献した。「北海道新聞」や「どさんこワイド」をはじめとする各種メディアでも多数紹介。



サーセンキョ！プロジェクト

選挙を楽しむ若者を増やすための、市民有志との協働プロジェクト。選挙期間中に釧路市役所前庭でイベントを実施し、立候補者風写真が撮影できるフォトブースや模擬投票体験を実施。また、有権者の思いや選挙を学べる漫画などを掲載するWEB制作も担当。地元大学の学生も運営に参加。



クシロソーシャル大学

クスろと一般社団法人くしろソーシャルデザインネットワークによる共同団体。釧路地域住民が気軽に集まって学び、議論、交流できる場として、トークイベントやワークショップを開催。団体所属のメンバーのみならず、一般市民が講師に立ち、それぞれが持つ知識や経験を共有し、幅広い世代交流の場を提供。

地域

釧路地域

釧路地域は中核都市の釧路市を含む8つの自治体で構成されており、人口は約22万7000人（2020年時点）。釧路港・厚岸港などの漁港を有する水産業で発展してきたエリアとして、また、農業、特に酪農で発展してきたエリアとして知名度が高い。阿寒摩周国立公園や釧路湿原国立公園など、自然をテーマにした観光地としても有名。

団体概要



団体名 | クスろ 設立 | 2014年

所在地 | 北海道釧路市 運営メンバー | 10名

主な事業 | 商品開発、デザイン、イベント企画・運営、情報発信

WEB | <https://kusuro.com/>



沿革

- 2014年8月 団体サイト立ち上げ、サイト上で釧路地域の魅力的な人々を取材した記事を発信
- 2014年9月 釧路のまちづくりを検討するワークショップを実施、以後定期開催
- 2015年2月 「『ひと』めぐりTOUR」 vol.1実施
- 2015年4月 「サーセンキョ！ガーデン」実施
- 2017年5月 「クシロソーシャル大学」発足
- 2019年2月 「クスろのおふざけキーホルダー」販売開始

FIELD NOTE



くしろ地方のローカルメディア

FIELD NOTE

フィールドノート



どのマチにもあるモノではなくこのマチにしかないモノをえらぶ

釧路市にある不動産会社ユタカグループの傘下で、シェアリングエコノミー事業を軸とした「株式会社エゾ・プランニング」によるまちづくりプロジェクト。くしろ地域のメディア「フィールドノート」や、釧路市街中心部にある空き店舗を活用した「コワーキングスペース HATOBA nishikimachi」、シェアハウス「カムイレラ」などの事業の運営・管理を行う。釧路市議会議員など地域のキーパーソンとの討論イベント「#くしろローカルディスカッション」などの動画コンテンツなども配信。また、移住者や交流・関係人口の人たちへ地域の情報発信により、釧路地域のファンを増やす試み（FIELD NOTE Community）も行う。

木村 拓也

1981年、釧路市出身。株式会社エゾ・プランニング代表取締役。株式会社ユタカコーポレーション代表取締役。不動産業を通じて、釧路地域の「もったいない」をなくす目標を掲げ、シェアリングエコノミーを取り入れた事業など幅広く活動を行う



釧路市・釧路町の 域内循環を進めていく

「フィールドノート」事業では、地元店の中でも個人事業主のお店の紹介を軸としている。これまでに500店舗以上の釧路地域の個人事業主のお店を取材することで、そのスモールビジネスの数だけ様々な働き方があることに気づき、働き方の多様性が見えてきた。個人事業主の店での買い物や情報発信をすることは、その働き方を応援すること。「買い物」「情報発信」＝「応援」をキーワードに、豊かな域内循環が起こる地域を目指している。

プロジェクト



コワーキングスペース HATOBA nishikimachi

これまでに、漫画家、デザイナーといった地域外の利用者や、学生や起業準備中の利用者、地域の作家や団体の活動の拠点として、またギャラリー、上映会、講演会などイベントスペースとしても活用される。地域住民と地域外から来た人たちとの交流窓口としての機能もあり、ここでの移住相談の後、実際に移住したケースもある。

※ 2022年2月10日より一休休止中



フィールドノート事業

地域の個人事業主「地元店」の紹介をメインとしたフリーペーパーやWEBサイト、イベントによって、「域内循環の促進」と「地域の働きかた・生きかたの多様性」を可視化。また、移住者や交流・関係人口への情報発信を行うことにより、釧路地域のファンを増やす試み「FIELD NOTE Community」も行う。

※ 2022年2月10日より一休休止中

くしろ町立 人間発電所

「コワーキングスペース HATOBA nishikimachi」で開催していたイベントが、釧路町教育委員会のキャリア講座としても開催。フィールドノート事業での取材を通して出会った地域で活動する人たちを中心に、地域内での働き方や生き方、価値観の多様性を子どもたちと大人が共に学ぶ場として、月に1度開催。

くしろ町立 人間発電所
ふるさとキャリア講座

<p>第1回 2020年9月26日(土) 13:00-20:30</p> <p>FIELD NOTE 連載者 清水 たつや 「一人ひとりがローカルプレイヤー」</p>	<p>第2回 2020年9月26日(土) 13:00-20:30</p> <p>動物愛護隊 中村 逸人 「肉のようちんこも、国産肉は美味しい」</p>
<p>第3回 2020年10月24日(土) 13:00-20:30</p> <p>デザイナー 佐藤 麻里奈 「みんなの暮らしのデザイナー」</p>	<p>第4回 2020年10月24日(土) 13:00-20:30</p> <p>カメラマン 森山 雅友 「選挙の撮影と動物愛護への情熱」</p>
<p>第5回 2020年11月21日(土) 13:00-20:30</p> <p>料理家 木村 宏幸 「ご当地グルメによる観光」</p>	<p>第6回 2020年11月21日(土) 13:00-20:30</p> <p>内科医 杉元 重治 「地域の医療」</p>
<p>第7回 2021年1月26日(土) 13:00-20:30</p> <p>次世代アーティスト 三浦 明美 「豊かな感性を育てる仕事」</p>	<p>第8回 2021年2月27日(土) 13:00-20:30</p> <p>第13回、第15回の開催予定は中止 清田 祐三 「コロナ禍の経営」</p>
<p>第9回 2021年4月24日(土) 13:00-20:30</p> <p>カフェオーナー 志藤 理子 「職人気質のオーナー」</p>	<p>第10回 2021年4月24日(土) 13:00-20:30</p> <p>Cafe Chiquette オーナー 太田 久美 「カフェとまちづくり」</p>

主催 釧路町教育委員会
共催 釧路町青少年育成協会子ども会
TEL : 0154-62-2300
mail : syokko_syokko@town.kushiro.lg.jp

地域

釧路市・釧路町

釧路市・釧路町は隣接した自治体で、2つの自治体を合わせた人口は約18万3000人（2021年時点）。釧路市・釧路町を含む1市3町村にかけて広がる釧路湿原は全国でも最大級。釧路市・釧路町ともに大型商業施設を有し、釧路総合振興局管内の中核を担う。1年を通した気候は両市町とも冷涼で、観光地や長期滞在としても人気がある。

企業概要



企業名 | 株式会社エゾ・プランニング フィールドノート事業
創業 | 2016年 所在地 | 北海道釧路市 従業員 | 2名
主な事業 | 情報発信・シェアリングエコノミー事業
WEB | <http://fieldnotekushiro.com/>



沿革

- 2016年 設立
- 2017年 コワーキングスペース「HATOBA」オープン
- 2018年 シェアハウス「カムイレラ」オープン
- 2020年 ユタカコーポレーションよりローカルメディア「フィールドノート」運営委託

Hokkaido Design Code



"Hokkaido" から "Design Code" で繋がる

複数の仕事を持つ女性3名が釧路市で出会い、2017年8月に設立。それぞれの強みを活かし、道東エリアにおいて人を繋げることで地域活性、地元の良さを伝えるために起業した。様々な分野で活躍する人を繋いで「HUB」になることで、地域プロジェクトとしてのイベント企画や、WEBサイトの構成、ライティング、その他広報・PRの事業を行う。社員3名それぞれの立場や強みを生かしたイベント登壇、主催実績も多数。近年では代表・四宮氏が釧路市のDXアドバイザーに就任するなど、民間の立場から市のDX推進に対して助言・支援をする活動も行う。

代表社員

四宮 琴絵

1976年生まれ。2006年に第一子出産後専業主婦へ。三人の子どもの出産を経て、2014年に株式会社ジョイゾーへ入社。2017年 Hokkaido Design Code を起業。2019年よりジョイゾー取締役 COO。その他、一般社団法人ラポールくしろ理事、釧路市 DX アドバイザーも務める。



ひとり一人の個性に寄り添い、 それぞれの豊かさに繋げる町にする

Hokkaido Design Code に関わる一人一人が持つ個性や得意なこと、この地域を愛する気持ちを、プロジェクトとして表現する。そしてそれが、誰かの幸せに繋がるように、Hokkaido Design Code がその「HUB」となる。様々な立場のそれぞれの価値観を大切に「豊かな生き方」に響くような、人との繋がりを企画・監修する。道東から日本、さらには世界へ「心の豊かさ」を広げることの可能性にチャレンジしている。



釧路地域クラウド交流会

釧路地域クラウド交流会は、顔の見えるビジネスマッチングイベント。釧路で起業する方に対し、地域の人々が「投票」という形で応援することができ、運営スタッフも地域住民で構成されている。2019年3月1日より(株)ジョイゾーより譲渡を受け、「釧路地域クラウド交流会」の主催となる。



道東×IoTハッカソン2018IoTで 観光課題を解決する！

北海道150年みらい事業として、北海道150年のPRも兼ねたイベントを開催。釧路内外から多数のIT技術者、従事者、観光関係者、一般市民が計30名集まり、「観光と防災」をテーマに、それぞれの目線でのプロダクト・サービス作成を行った。



EZOSHOW2018

全国から集まった北海道人で、北海道を満喫するカンファレンスを都内で主催。300人ほどを集客。新しい北海道を作ろうとしている道内外の挑戦者たちのプレゼンや、北海道出身者によるご当地グルメ、パフォーマンス、北海道の自治体、企業のPRなどを行なった。

釧路管内を中心とした北海道全域

釧路地域は釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、白糠町、鶴居村で構成されており、人口は約22万7000人(2020年時点)。中核都市は釧路市。釧路港・厚岸港・白糠港などの港を有し、水産業で発展してきたエリア。また、阿寒摩周国立公園や厚岸霧多布昆布森国定公園など、自然をテーマにした観光地としても有名。



企業名 | 合同会社 Hokkaido Design Code

創業 | 2017年 所在地 | 北海道釧路市 従業員 | 3名

主な事業 | イベント企画・運営、ライティング

WEB | <https://www.hkd-dc.com/>



- 2017年10月 北海道150年事業パートナー参画
- 2018年11月 Webメディア「キタゴエ」道東支部設立
- 2018年12月 四宮氏が「ワーママ・オブ・ザ・イヤー2018」受賞
- 2019年3月 「釧路地域クラウド交流会主催」を(株)ジョイゾーより譲渡
- 2019年9月 サイボウズ(株)「地域クラウド交流会リーダーズ」育成事業参加
- 2021年5月 四宮氏が釧路市DXアドバイザーに就任

十勝シティデザイン株式会社



「関係人口」×「フードバレーとかち」×「中心市街地再生」から新しい日本を作る

ホテルは、まちの居間であり、多種多様な人びとが交差する都市と類似する。当社は、ホテルと都市の相似形を活かし、都市が持つ触媒機能をホテルから拡張して街を形成する「ホテルアーバニズム」で、東京一極集中から地域分散型社会への移行を促す。2016年には米国ポートランド市（オレゴン州）のACE HOTEL から着想を得たホテルヌプカ（HOTEL NUPKA）を帯広中心市街地に開業。その後も、クラフトビール、馬車BAR、ワーケーション事業などホテルを起点とした街作りに取り組んでいる。

創業者 柏尾 哲哉

帯広市出身。東京で弁護士として活動しながら、2013年に十勝出身の仲間と短編映画製作を開始、2014年に十勝シティデザイン株式会社を坂口琴美と共同で創業。HOTEL NUPKA、旅のはじまりのビール、馬車BARツアー、十勝・帯広リノベーション協議会などの事業を手掛ける。



中心市街地の活性化を 地域全体の未来創造に繋げる

消費から創造へ。長く空洞化現象に苦しむ帯広の中心市街地。そこは未開の十勝の原野が農業王国「フードバレーとかち」に至る明治期からの創造拠点だった。十勝開拓の原点に戻り、都市が持つ創造機能の活力を地域全体を課題解決・未来創造に繋げていく。十勝シティデザイン株式会社は、人が交わる触媒となるホテル、街の魅力を高める馬車 BAR、そして、都市圏と地域の関係人口を増加させる「リゾベーション」へと事業を広げ、中心市街地に価値創造拠点としての機能の実現を目指している。

プロジェクト



HOTEL NUPKA / NUPKA Hanare の運営

ホテル／カフェ／イベント開催を柱とした、旅人と地元の人が集まり、出会いが生まれる場となるコミュニティ型ホテル「HOTEL NUPKA」。1Fエントランス部に宿泊者以外の利用者にも開放されているテレワーク施設「Hanare LOUNGE」が設置された「NUPKA Hanare」の運営をしている。



馬車 BAR

2019年4月より、鞍馬ムサシコマが曳く馬車で帯広の夜の街なかを巡る「馬車BAR」ツアーを運営。馬車は高級感あるBAR仕様、車内または2階席にてオリジナルクラフトビール「旅のはじまりのビール」やローカルフードを楽しめる。世界で唯一「ばんえい競馬」が開催される十勝ならではのプレミアムツアーとなっている。



十勝・帯広リゾベーション協議会

十勝・帯広地域の関係人口を増やすリゾベーション（Reswovation = Resort x Workation x Innovation）型滞在のモデル実証を目的として地元企業と東京圏の企業群により結成。令和3年度「中間支援組織の提案型モデル事業（内閣府）」及び「地方創生テレワーク交付金（内閣府）」に事業採択。

地域

十勝・帯広を拠点に 全国・全世界へ展開

十勝地域は北海道の14総合振興局・振興局の中で面積が一番広い地域。人口は約33万人（2021年時点）。中核都市は帯広市。東京から飛行機で1時間半の距離。日高山脈、十勝平野があり、大規模農業や酪農が発展。食料自給率は1339%（2021年時点）。十勝晴れと言われるように冬の晴天率が高いことでも知られている。

企業概要



企業名 | 十勝シティデザイン株式会社

創業 | 2014年 従業員 | 30名

所在地 | 北海道帯広市西2条南10丁目20-3

主な事業 | ホテル・飲食店、ビールその他物品の販売、街づくり事業

WEB | <https://www.nupka.jp/>



沿革

- 2013年 十勝を世界に伝える短編映画「my little guidebook」プロジェクトを開始
- 2014年 十勝シティデザイン株式会社を創業
- 2016年 コミュニティ型ホテル「ホテルヌプカ」(HOTEL NUPKA) を帯広駅前を開業
- 2016年 クラフトビール「旅のはじまりのビール」を発売。フードアクションニッポンアワード2016を受賞
- 2019年 帯広の夜の街なかを馬車で巡る「馬車BAR」ツアー事業を開始
- 2020年 都市圏企業と協働で十勝・帯広リゾベーション協議会を設立
- 2021年 内閣府による「中間支援組織の提案型モデル事業」を受託し、東京圏企業を対象とするリゾベーション体験ツアー（3回）を実施

とち熱中小学校（一般社団法人北海道熱中開拓機）



もういちど7歳の目で世界を・・・

楽しみながら何かに夢中になる「熱中人」を発掘し、個々の意思による「やりたい」を応援する活動を行っている。その一環として広域連携型の人材交流及び学びのシェアを目的に、十勝管内の各市町村において、横断的な広がりや機会創出のためのサテライト授業を行う「とち熱中小学校」を運営し、リカレント教育による気づきや知見、仲間づくりを通じて、人材育成や起業促進、地域活性化や産業振興による創造性豊かな地域づくりに取り組んでいる。さらに十勝の強みである「食」をテーマに、「とち食の熱中小学校」を実施。現地生産者や、地域の料理人、地元の料理上手による美味しい食べ方の提案や特産品開発の支援など、様々なプロジェクトが生まれている。

とち熱中小学校 校長

長澤 秀行

北海道旭川市生まれ。帯広畜産大学大学院畜産学研究科修士課程修了、徳島大学大学院医学研究科博士課程修了。徳島大学で助教授、帯広畜産大学で教授を務めた後、2008年に同大学の学長に就任。16年にとち財団の理事長に就任。現在は、帯広畜産大学顧問を務める。大学時代から始めたラグビーは現在も現役。帯広少年ラグビースクールの校長も兼ねる。



まちづくり = ひとづくり

地域の課題を解決するために必要なものは「ひと」の力。地方には地域の活性化に向けて行動できるプレイヤーが圧倒的に不足している。熱中小学校では、各業界の最先端で活躍する方々による講義から知識やノウハウを学ぶことができるだけでなく、想いのある個人同士のつながり、一緒にチャレンジできる仲間づくりができる場を提供している。

プロジェクト



「ふるさとみつけ塾」事業

主に都市の企業人を対象としたサステナブルキャリアプログラムを通じて、新しい挑戦を考える人に向けた学びの場を提供している。U & I ターンなど本格移住をする前に、まずは地方で試しに働いてみたいという方に向けた社会人インターンシッププログラムも実施。本取り組みはファッション誌『VOGUE JAPAN』でも紹介された。



芽室版「食の熱中小学校」事業

「芽室町食の魅力発信事業」の一環で、生産量日本一を誇る芽室町のスイートコーンなどについて収穫体験や講話、食事会を通して学ぶ事業を実施。芽室町内外からの多くの参加者に芽室の食の魅力を伝えた。



熱中 KAKAWARI 人力車プロジェクト

浅草の人力車車夫で、世界を人力車で走破中の“ガンブ鈴木さん”(本名：鈴木 悠司 31歳)が実行する北海道から沖縄まで3,000キロの人力車ランを、“熱中 KAKAWARI 人力車プロジェクト”として支援。出発地の帯広市では、十勝シティデザイン株式会社(北海道帯広市)と共同で出発セレモニーを開催。

地域

十勝

十勝地域は北海道の14総合振興局・振興局の中で面積が一番広い地域。人口は約33万人(2021年時点)。中核都市は帯広市。東京から飛行機で1時間半の距離。日高山脈、十勝平野があり、大規模農業や酪農が発展。食料自給率は1339%(2021年時点)。十勝晴れと言われるように冬の晴天率が高いことでも知られている。

企業概要



企業名 | とち熱中小学校(一般社団法人北海道熱中開拓機構)

創業 | 2016年

所在地 | 北海道帯広市

主な事業 | 人材育成や起業促進、地域活性化に関する事業

従業員 | 9人(役員含む)

WEB | <https://www.necchu-hokkaido.com/>



沿革

- 2016年9月 一般社団法人設立
- 2016年10月 初代校長・山井太(株式会社スノーピーク代表取締役社長<当時>)就任
- 2017年4月 北海道初となる熱中小学校を更別村に開校
- 2017年7月 「TEDxSapporo」と連携協定を締結
- 2019年11月 「第7回プラチナ大賞」優秀賞を受賞
- 2021年4月 とち熱中小学校に改称、活動拠点を帯広市に移転

公益財団法人とかち財団



新たなチャレンジを増やす共創プラットフォーム

とかち財団は、十勝にイノベーションを引き起こす産業支援のプラットフォームを担っている。十勝地域の総合的な産業振興と活力ある地域社会の形成に資することを目的に、研究開発・技術支援施設「十勝産業振興センター」、「北海道立十勝圏地域食品加工技術センター」、「十勝事業創発支援センター『LAND』」を管理運営し、産業振興を行っている。事業の立ち上げ、商品開発、企業間コラボレーションなど、新たな挑戦をする人のビジョンを実現するためのあらゆるステップに力を尽くしている。

公益財団法人とかち財団
事業創発支援グループ 課長

高橋 司

1977年帯広市生まれ。帯広市在住。大学進学で首都圏に移住し、東京でWEBマガジン編集長、十勝産食材使用の飲食店店長などを経て2012年に帯広市にUターン。地域産品の販路開拓や商品開発事業に従事後、現職。十勝における事業共創を活発化させることをミッションに、「十勝事業創発支援センター『LAND』」を運営。



挑戦する人が集まる 十勝を実現する

持続的に経済が成長し活力のある十勝を形成するために、「挑戦する人が生まれ、集まる、「十勝」」の実現を目指している。それに向けてとかち財団では、3つの施設の運営、食品や農業機械、食品製造機械などのものづくり支援や、十勝の既存産業と新産業の掛け合わせや、地域内外の事業者が交わるビジネスコミュニティの形成促進、起業創業・事業創発の機会を創出し、挑戦しやすい十勝づくりに取り組んでいる。

プロジェクト



北海道宇宙サミット

宇宙版シリコンバレーの創出を目的に、十勝大樹町、帯広市において「北海道宇宙サミット2021」を実施した。登壇者25名、来場者約450名、オンライン視聴者約2,200名、協賛者14社、掲載メディア21社。



地域活性化ビジネス相談所「O-KISOU」

十勝地域で起業・創業・新たな事業にチャレンジする方の事業アイデアや事業計画の実現をサポートするビジネス相談所。合同会社コントレイル、帯広市とともに実施。令和3年7月から毎月開催し、相談者15名、法人設立1社（準備中1社）、起業準備中2名。



ちくだいスタートアップ体験プログラム

帯広畜産大学の学生を対象に、ビジネスを一から立ち上げる「スタートアップ体験」をしてもらう事を目的に、帯広畜産大学、帯広市、とかち財団の連携事業として実施。

地域

十勝

十勝地域は北海道の14総合振興局・振興局の中で面積が一番広い地域。人口は約33万人（2021年時点）。中核都市は帯広市。東京から飛行機で1時間半の距離。日高山脈、十勝平野があり、大規模農業や酪農が発展。食料自給率は1339%（2021年時点）。十勝晴れと言われるように冬の晴天率が高いことでも知られている。

企業概要



企業名 | 公益財団法人とかち財団

創業 | 1993年

所在地 | 北海道帯広市

従業員 | 29人

主な事業 | 食品産業支援、機械・電子産業支援、企業振興、事業創発支援

WEB | <http://www.tokachi-zaidan.jp>



沿革

1993年8月 財団法人十勝圏振興機構設立

2013年4月 公益財団法人へ移行し、名称を「公益財団法人とかち財団」に変更

2018年4月 公益財団法人起業家支援財団と合併

2019年8月 十勝事業創発支援センター「LAND」の設置

2020年9月 第9回地域産業支援プログラム表彰事業「イノベーションネットアワード2020」農林水産大臣賞受賞

tokachi field action Lab



十勝・帯広の企業と地域内外の学生を結びつけ、 自分と地域の関わり代を生み出すプラットフォーム

tokachi field action Lab は民間と行政のメンバーにより立ち上がった協議会である。真の地方創生には、地域本位の独りよがりな表層的な取り組みではなく、理想に届いていない「不都合な事実」を捉えたうえで、地域（ヒト・モノ・コト）が置かれている構造をベースに、参加者と地域のお互いが持続的な成長・発展を可能とする関係の構築が必要となっている。tokachi field action Lab では、十勝・帯広にも東京等の大都市圏にもそれぞれの魅力があることを認め、魅力の競合ではなく、構造をベースにした正しいアプローチで「選択肢」の一つを見つけてもらうことを目指した取り組みを行っている。

会長

山内 一成

三重県出身。東京の大学生時に帯広の農業インターンに参加。ベンチャーや大企業にて人材育成等に従事後、2016年に起業し帯広へ移住。「次世代にタスキをつなぐ」をミッションに、十勝の農家・企業と全国の大学生をつなげ双方を育むインターンの企画運営を軸にした事業を展開。



若者の視点で十勝・帯広の魅力を再発見する

食・農・産業・文化において多様な地域資源がある十勝・帯広。その魅力に地元の若者がなかなか気づけない現状がある。tokachi field action Lab では域外の大学生と十勝・帯広の接点を作るスタディツアー、域外の大学生が十勝・帯広企業の課題に取り組む個別プロジェクト、そして関わった大学生との関係を継続するリトルトカチなどの仕組みをつくり、外部の若者の視点から地域の魅力を再発見し地域の若者に気づきを与えることを目指している。

プロジェクト



とがち brush Up プロジェクト

大学生を対象とした9日間の合宿型プログラム。参加大学生は「“地方創生”とはいったいなに？」をテーマに地域の身近な企業の、知られざる歴史やビジョン、チャレンジを掘り起こす作業を通して、自身の企画力・分析力・表現力を磨き、チームで企業の採用広報の記事原稿作成に挑戦した。



萩原建設工業インナーブランディング向上プロジェクト

全国から集う大学生が、十勝・帯広企業の経営課題に取り組む実践型プロジェクトの1つ。十勝最古の建設会社である萩原建設工業を対象とした本プロジェクトでは、萩原建設工業が「地域に与えている価値」を記事化し、webメディア（キミトカチ）に掲載することによるインナーブランディング向上に挑戦した。



リトルトカチ

十勝・帯広を訪れファンとなった人が、十勝を離れた後も「十勝を感じられる場所」（関係人口のサードプレイス）の創出を目的とするプロジェクト。東京都品川区西小山にある「クラフトビレッジ西小山」をベースにして、十勝好きがワクワク・気楽に繋がっている状態をつくる様々な取り組みを行っている。

地域

帯広市・十勝

十勝地域は北海道の14総合振興局・振興局の中で面積が一番広い地域。人口は約33万人（2021年時点）。中核都市は帯広市。東京から飛行機で1時間半の距離。日高山脈、十勝平野があり、大規模農業や酪農が発展。食料自給率は1339%（2021年時点）。十勝晴れと言われるように冬の晴天率が高いことでも知られている。

団体概要



団体名 | tokachi field action Lab 設立 | 2018年

所在地 | 北海道帯広市 運営メンバー | 4人

主な事業 | フィールドスタディ、課題解決型プログラムの企画・運営及びプラットフォームの運営

WEB | <https://www.facebook.com/groups/628425538534251>



沿革

- 2018年 帯広・東京で学生と農業関連企業とのミートアップイベント実施
- 2019年 スタディツアー開始
- 2020年 とがちbrush Up プロジェクト実施
- 2020年 学生と地元高校生のミートアップイベント実施
- 2021年 学生と地元企業との実践型プロジェクト開始
- 2021年 十勝・帯広の関係人口のサードプレイス「リトルトカチ」開始

株式会社ロジカル



地域振興をベースにした、マーケティングの総合商社

地域振興をベースに、戦略企画・媒体政策・広告・PR等を総合的に請け負う北見市発のマーケティングコンサルティング会社。大自然に隣接した都市で、時間や場所に捉われない自分らしく自由な働き方を標榜する「オホーツクバレー」をビジョンとした北見市のテレワーク推進は広く評価されている。北見市の農産物加工品のブランディングでは日本一の実績も。自社事業では食と教育にも注力しており、飲食店と学習塾を経営。個人・企業・社会各々にとって望ましい地域経済圏、自然主義経済圏の確立に向けてさまざまな事業を展開している。

代表

西野 寛明

1983年北海道北見市生まれ。株式会社ロジカル代表取締役。SBI証券入社後 MBA取得を契機に北見市にUターン。地域振興をベースとしたマーケティングコンサルティング会社・株式会社ロジカル設立の他、ヤキニキストとして北見の地域文化・北見焼肉の発信にも注力している。



ポスト資本主義「自然主義経済」による オホーツクバレーの確立

オホーツクは、一次産業を基幹産業とし、個人の暮らしも自然に近い、まさに自然に生かされている地域。株式会社ロジカルは、生産や労働、あらゆる手段が目的化している現代において、個人と地球環境とが自然体であることを経済の価値として捉え、テクノロジーを活用しながら、共感性と主体性に基づいた自己実現と豊かな経済活動と生き方が選べる経済、自然主義経済が実装された、オホーツクバレーを目指している。



北見市IoT推進ラボ

北見市のIT企業誘致を背景としたテレワーク推進を発端に、人材誘致、IT産業創出を主とした取り組みを実施。IoT推進ラボの事務局として、地域企業と首都圏企業のプロジェクトマッチングや、人材育成、誘致策に取り組む。時間や場所に捉われず、自然で自由な働き方と産業が根ざした「オホーツクバレー」を標榜している。

オホーツク

オホーツク地域は3市14町1村の18市町村で構成される北海道の北東部の地域。人口は277,478人、面積は10,690,53km²（令和2年12月31日現在）。世界的にも貴重な原始の自然をそのまま残す「世界自然遺産知床」をはじめ、1月下旬から3月にかけてオホーツク海を覆う流氷は、他の地域では見ることのできないオホーツク特有のものである。



生産量日本一、玉ねぎのブランディング

北見市とオホーツクの農協が出資する地域企業、株式会社グリーンズ北見の製品をリブランディング。生産量日本一である玉ねぎを使用した既存製品を「たまコロ」としてリニューアル。全国コロッケフェスティバルで日本一を2度獲得。市内の飲食店や小売店での販売はもちろん、市内外問わず愛される商品へと成長した。



自然主義経済、エコシステム創生

地域産業として根ざしている一次産業を、デジタルやバイオテクノロジー等あらゆる技術の帰着点として位置付ける「百次産業」をキーワードに、新たなイデオロギー「自然主義経済」への共感に基づいた地域と外部人材との結びつきと産業の連関性を高めていくエコシステム創生に取り組む。

RΩgical

企業名 | 株式会社ロジカル

創業 | 2013年

所在地 | 北海道北見市

従業員 | 8人(役員含む)

主な事業 | 戦略企画・媒体政策・広告・PR等を請け負マーケティング
コンサルティング事業、飲食店・学習塾の経営

WEB | なし

- 2013年6月 設立
- 2014年12月 コワーキングスペースTAYUMANU設立
- 2017年6月 サテライトオフィス北見に本社移転
- 2019年4月 北見市IoT推進ラボ事務局
- 2019年 未来を楽しむ学習塾「school」オープン
- 2019年 CraftBeer & Spice Tonakai 2オープン
- 2019年 Ezoneuオープン

株式会社道東テレビ



映像で地域を見立てる「あなた輝くまちテレビ」

「あなた輝くまちテレビ。道東テレビ」は道東地域の活性化のため、映像で情報発信とアーカイブを行っている。YouTubeやFacebook、Twitter、Instagramなどさまざまなメディアを活用し情報発信や映像制作を行う傍ら、コワーキングスペースやキャンピングカー・キッチンカーなどのレンタルサービス事業も行う。オンライン・オフラインを組み合わせ様々な地域とのタッチポイントを創出している。テレビ番組制作会社経験を活かした代表の立川氏を中心にマスメディアとのコラボレーション実績や協業も多数。マスメディアとローカルメディア繋ぐ存在としても重要な役割を担う。

代表 立川 彰

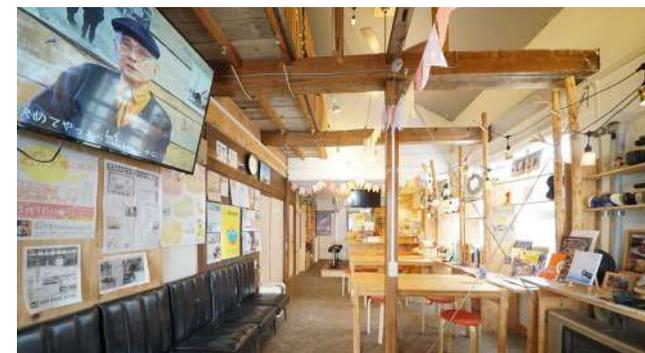
静岡県出身の41歳(1980年生)。日本テレビ「笑ってコラえて!」のアシスタントディレクターを経て、フリーのビデオグラファーとして活動。2012年、千葉県船橋市で映像制作会社の株式会社キロックムービーを創業。2016年北海道津別町に地域おこし協力隊として移住し道東テレビを創業。



あなた輝くまちテレビ

北海道の東側、道東エリアでインターネットを活用し、100% 自社制作の映像制作・メディアを運営。NHKを除く、ローカルテレビ局の支局が無い広大なエリアにおいて、町の広報番組や映像制作を通し、情報発信インフラをコンテンツの力で担いながら、本社がある「道東のへん」ともいわれる津別町から、地域の人にスポットが当たる「あなた輝くまちテレビ」実現を目指している。

プロジェクト



タウンニュースつべつ

町のプロモーション映像制作を単発ではなく、コンスタントに発信することでファン作りや地域住民へのインフラになることを志向。町の時事ニュースなど津別町にまつわるトピックを幅広く取材・放送している。パーソナリティを町役場職員が担うなど、町内のプレイヤー・事業者とも協業し運営。町内のデジタルサイネージでも放映。

MOVE弟子屈

弟子屈町の元気な事業者を紹介する3分程度の動画と1分のCM動画を制作し定期的に放送。町民も意外と知らない地元の名店やこだわりなどを取材。元北海道文化放送のアナウンサーで現・弟子屈町地域おこし協力隊の川上氏が運営する「弟子屈町公式チャンネル」と協業・制作を行った。

コワーキングスペースJIMBA運営

津別町が推進していた空き家活用事業「道東エリアリノベーションプロジェクト」に参加し、町内の築80年の空き家を町民と共同で改造、リノベーションし設立したコワーキングスペース。道東テレビの発信拠点兼事務所としての機能や津別町のまちづくり会社・北海道つべつまちづくり株式会社などが入居している。

地域

津別町

オホーツク管内にある津別町は農業と林業を中心とした人口約5000人の森林のまち。津別峠の展望台からの願望は道東一と言われ、なかでも津別峠で見られる雲海は絶景。道東圏のほぼ中央に位置し、内陸気候帯に属しているため、夏は相当の高温を記録するが、冬は流水などの影響も受け寒冷で寒暖差が大きい。

企業概要



企業名 | 株式会社道東テレビ 創業 | 2019年3月
所在地 | 北海道網走郡津別町 従業員 | 2名
主な事業 | 映像制作・メディア運営・コワーキングスペース運営・レンタカー事業
WEB | <https://www.youtube.com/channel/UCOMJsH3UNTd5DGnvcnFSXfg>

沿革

- 2016年6月 地域おこし協力隊として代表・立川氏が津別町に移住、道東テレビ創業
- 2018年1月 TBSクレイジージャーニーでプライベート旅がスペシャル放送
- 2018年6月 レンタルキャンピングカー事業「ジンパレンタカー」開始
- 2018年7月 津別町広報番組が北海道映像コンテスト2018地域振興部門最優秀賞 短編・VP部門 優秀賞を受賞
- 2019年3月 コワーキングスペースJIMBA開設、株式会社道東テレビ設立
- 2020年7月 日本テレビ「1億人の大質問!?笑ってコラえて!」ダーツの旅のディレクターとして北海道弟子屈町を取材
- 2020年7月 総務省副大臣・長谷川氏がJIMBAを視察
- 2021年5月 津別町広報番組タウンニュースつべつが全国広報コンテスト映像部門で三位入賞(読売新聞社賞)

Casochi 合同会社



わくわくかそち、かそちっていいよね。

過疎地の町・北海道滝上町にて、地元牧場生まれのUターンした姉妹で立ち上げ。チラシやパンフレットなど、印刷物を中心としたデザイン、HP制作やSNSを活用する情報発信、曜日限定で開かれる喫茶店「KARSUI」の運営や、そこで行われるイベントの主催など、活動の幅は多岐にわたる。その活動領域は滝上町だけではなくオホーツク全体に広がっており、従来の「過疎地」のイメージとは一線を画した新たな視点での制作や情報発信を得意とする。実家である「井上牧場の牛乳」の加工販売や情報発信も行っており、田舎でできること・やりたいこと・わくわくすることの実践&実験の日々を送る、お仕事ユニット。

代表社員

井上 愛美

紋別郡滝上町生まれ。札幌大谷高校美術科・北海道教育大学岩見沢校教育学部美術コース（彫刻）卒業。卒業後は実家の井上牧場にて仔牛を育てる傍らアート制作。2016年、姉・扇みなみと共にCasochi合同会社を立ち上げ、イラスト・デザインを始めとするクリエイター業に携わる。



「自分で、みんなで生きていく」、 そんなひとたちが 楽しく暮らす「カソチ」を作る。

滝上町を出て外の世界を見てきた姉妹で結成された、Casochi合同会社。一度離れたからこそわかった地元＝過疎地のことを、自分たちの目線とやり方で、素敵な場所に。実は、過疎地にも都会にはない楽しさがたくさんあることを知ってもらい、まずは自分たちが好きなことや楽しいこと、そして好きな生き方をして、過疎地は楽しいと感じながら生きていく。そんな風に自分たちの出来ることを進めながら、滝上町を素敵なまちにしていきたいと考えている。

プロジェクト



絵本「武四郎とショコツアイノ」の製作、 増刷クラウドファンディング

渚滑川（しょこつがわ）流域に暮らす有志で立ち上げた「しょこつがわ連携研究会」が研究した同地域内における松浦武四郎とアイヌのエピソードを絵本化する支援を実施。さらに同絵本を増刷するためのクラウドファンディングを実施、748,000円・93名の支援額を集める。



OKHOTSK FOOD CONCERT協同組合の ブランディング支援

オホーツク地域の生産者による協同組合OKHOTSK FOOD CONCERTの商品、「オホーツクの発酵酢」に関するブランディング支援を行った。ラベルのデザイン、ウェブサイトやネットショップの制作を担当したほか、商品やオホーツク地域の情報発信の強化も行った。



旧喫茶店を活用した地域内外の 個人・団体とのコラボ

町内の旧喫茶店について所有オーナーからレンタルし、火曜・水曜のみ営業の「KARSUI」を開始。地域の事業者や個人と連携したスイーツ、食事メニュー等の提供や、本屋・雑貨屋・カレー屋・ドライフラワー屋などとのコラボ営業など、飲食店ではなく「場」としての喫茶店づくりを行った。

地域

オホーツク地域、滝上町

オホーツク地域はオホーツク海と接しており、冬の寒さは厳しいものの、比較的穏やかである。「世界自然遺産 知床」をはじめとした豊かな自然景観に恵まれているほか、1月下旬から3月にかけてオホーツク海を覆う流氷はこの地域特有。オホーツク地域内にある滝上町は、シバザクラや林業、農業で有名。童話村としての町おこしも進めている。

企業概要



企業名 | Casochi合同会社 創業 | 2016年

所在地 | 北海道紋別郡滝上町 従業員 | 3名(役員含む)

主な事業 | デザイン、イベント企画、喫茶運営

WEB | <https://www.casochi.jp/>



沿革

- 2016年12月 設立
- 2018年4月 牛乳加工販売開始
- 2019年4月 喫茶「KARSUI」開始
- 2019年3月 絵本「武四郎とショコツアイノ」制作
- 2020～2021年 滝上町観光協会「錦仙峡お散歩ガイド」全3種製作
- 2021年9月 「PARIPARI CRAPERIE OYAMAYA」開始

Ynet.



標津の「人」とつながり、「人」をつなげる

Ynet. は標津町役場の若手職員で構成。標津町の現状を把握し課題を学びあう中で、広い視点をもって地域振興、まちの活性化に向けたアイデアを出し合い、政策に結び付けていくことを目標に活動中。その中でも活性化の一翼を担う、町で活動する魅力ある方々にフォーカスし紹介する「しべつろーかるふりーぱー『sipeto』」は、町内において多くの読者に親しまれている。

辻 卓也

標津町出身。高校まで地元で過ごし一度地元を離れ、2012年4月標津町役場に入庁。Ynet. には設立メンバーとして参加。サブリーダーとして活動を続け、「sipeto」のデザイン班としてNo.1発行に携わる。2021年4月からリーダーとして活動中。



標津の「人」と未来を描く

標津町でまちづくりに関係する活動をしている団体や個人等の魅力的で味わい深い、標津の「人」たちの存在や取り組みを多くの人に知ってもらうために活動している。現在は町内に500部配布している「sipeto」も将来的には町外の人にも届けることも検討中。また、sipe トークを通して「sipeto」で紹介した人同士のつながりを醸成している。標津の「人」との関わりから未来の「標津」を描いていく。

プロジェクト



シベツろーかるふりーぱー sipeto

標津町の活性化を目指すために、シビックプライド（自分自身が地域の一員であると自覚し、地域をさらに良い場所にして行こうとする想いや、主体的に活動すること）の醸成が不可欠と考え、その一つとして町内で活躍する方々取材し、フリーペーパー「sipeto」を発行している。今までに25の個人・団体取材し、今後も標津町で活躍する魅力ある方々を追いかけていく。



意見交換会 sipeトーク

「sipeto」で取材した方々が一堂に会し、取材だけでは聞き取れなかった標津町に対するアツい想いを語り合う意見交換会。人と人をつなぐ場でもあり、それは新たな創出にもつながっている。ここで出る町の課題や要望を検証することで政策の提案材料としている。



Ynet. 体験部

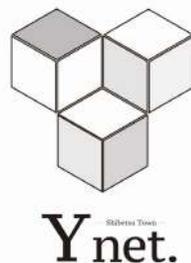
町内を中心とし、近隣市町村で開催される町おこし関連のイベント等に積極的に参加し、交流を通して課題や活性化のアイデアなどを情報収集している。また、郷土料理である鮭飯寿司の伝承を目的に、家庭で手軽に作れるレシピや手法の検証をはじめ、カメラ講座といったメンバー持ち込みの企画も体験し発信している。

地域

標津町

標津町は北海道の最東端、根室振興局管内の中心部に位置し、北には知床半島、南にはノサップ岬を先端とする根室半島が伸びる。人口は約5,000人、サケを中心とする漁業、標津川流域の大型酪農が基幹産業となっている。町名の標津はアイヌ語で「サケのいるところ、大川、または本流」を意味する「シベツ」が語源となっている。

組織概要



組織名 | Ynet. 設立 | 2015年2月 運営メンバー | 9名

所在地 | 北海道標津郡標津町 標津町役場

主な事業 | シベツシビックプライドプロジェクト、政策プロジェクト

WEB | https://www.shibetsutown.jp/gyosei/soshiki/work_kikou/kikakuseisaku/sipeto/



沿革

2015年2月	設立
2018年4月	sipetoNo.1 発行
2019年4月	Ynet. 体験部始動
2020年11月	sipe トーク開催 (意見交換会)
2021年9月	sipetoNo.13 発行

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 ローカルチーム



北から未来を切り拓く

効果音などサウンド素材を輸入販売する「音の商社」から創業し、歌声合成ソフトウェア「初音ミク」の開発に留まらず、クリエイターに向けた製品やサービスをクリエイイトしている。ローカルチームは北海道に根差し、メディア、イベント、映像、食などジャンルを問わず、地域から新しい価値、そして未来を共に生みだしていくチームとして発足。北海道において幅広いジャンルで事業や企画を展開しており、これまでに培った経験をもとにした企画力・実行力を強みとする。



企業名 | クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 創業 | 1995年

所在地 | 北海道札幌市 従業員 | 122名 WEB | <https://www.crypton.co.jp>



主な事業 | 音楽制作ソフトウェアの開発・配信 / モバイルコンテンツ企画・開発・運営 / 音楽配信プラットフォームほかWEBシステムの開発・運営 / キャラクターに関する国内外ライセンス事業 / 地域を応援するローカルプロジェクトの企画・運営 / その他ジャンルにとられない技術の企画開発

- 1995年7月 札幌市に「クリプトン・フューチャー・メディア株式会社」を設立
- 2017年1月 地域情報発信スマートフォンアプリ「Domingo (ドミンゴ)」のサービス提供をスタート
- 2017年2月 北海道と「Domingo」を通じた交流人口拡大に取り組むことを目的としたタイアップ協定を締結
- 2017年10月 「NoMaps (ノーマップス)」第1回を開催、インタラクティブ分野を中心に参画
「Domingo」が北海道全179市町村公認に。また、「Domingo」スマートフォン用アプリ版に加えてWEB版も公開

北海道の未来 そのものを創り出す。

プロジェクト

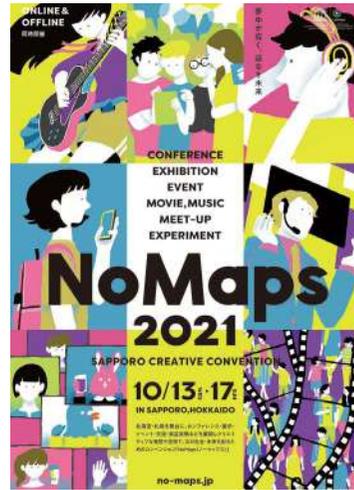


Domingo

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社を取り組む、北海道を応援するローカルプロジェクトの総称。北海道を愛するすべての方に、北海道とゆるやかに繋がっていただけるような仕組みを考え、地域の未来に貢献すべく実行している。2017年に北海道とのタイアップ協定を締結し、同プロジェクト名を冠した無料のニュース&イベント情報アプリの提供を開始。現在は北海道内全179市町村公認の情報プラットフォームとして、北海道の情報を幅広く継続的に発信。

北海道鶴居村子連れワーケーション ガイドブック企画・制作

クリプトン・フューチャー・メディアローカルチームは、地域の課題をヒアリングし、その課題に合った企画を提案、最終的なアウトプットまで実施している。新しい働き方として注目を集める「ワーケーション」について、2021年度に北海道鶴居村における企画検討・ガイドブック制作を行った。



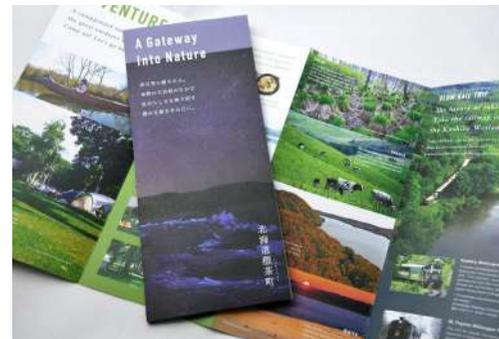
NoMaps

北海道・札幌を舞台に、カンファレンス・展示・イベント・交流・実証実験などを展開し、クリエイティブな発想や技術で次の社会・未来を創るためのコンベンション「NoMaps」事務局のコアスタッフを担当。2016年のプレ開催実施から携わり、様々な事業の企画・制作・運営を行っている。



北海道標茶町プロモーション映像 および観光パンフレット企画・制作

北海道標茶町のプロモーション映像、および観光パンフレットの企画・制作を担当。プロモーション映像は撮影に約2年半という長い時間をかけ、春夏秋冬それぞれの町の魅力を撮影。観光パンフレットは地域のクリエイターの方々と連携し、新たなコンセプト作りから制作までを行った。



Domingo 北海道市町村コラボレーション

北海道の多様なまちの魅力を紹介するべく、ひとつの市町村を一ヶ月に渡って紹介する「北海道市町村コラボレーション」を定期的実施。名製品の生産ストーリーを深掘りし、魅力的なスポットは地元「ならでは」の楽しみ方をご紹介するなど、地域の方々丁寧に会話を重ねコンテンツを制作している。



Domingo ローカルプレーヤー

フォトグラファー・編集者・カフェ経営者・デザイナーなど、北海道の各地域で活動し、新しい価値を創っている方々を「ローカルプレーヤー」として紹介。ローカルプレーヤーの方々が日常的に更新しているブログと連動し、地域に密着した日々の発信をDomingoを通じて紹介している。



株式会社 ACT NOW



世の中をもっとたのしく。 地域応援型クラウドファンディング・サービス

北海道を中心とした、地域活性化クラウドファンディングサイト「ACT NOW (アクトナウ)」の運営を行っている。2015年4月からサービスがスタートし、延べ3千件以上のプロジェクト、600人以上の挑戦者がACT NOW を活用した。個人の夢ややりたいことを叶えたい、企業や団体の活動を応援してもらいたい、など様々な挑戦をサポートしている。

企業名 | 株式会社ACT NOW 創業 | 2014年
所在地 | 北海道札幌市 従業員 | 3名(役員含む)
主な事業 | クラウドファンディングサイトの企画・運営
WEB | <https://actnow.jp/>



ACT NOW

2015年4月 クラウドファンディングサイト「ACT NOW (アクトナウ)」スタート
2016年5月 サツドラ共通ポイント「エソカ」のポイントで支援スタート
2018年6月 月額継続課金会員制度「ファンクラブ」スタート
2020年6月～9月 札幌市飲食店未来応援クラウドファンディング実施

地域初の挑戦を 一つでも多く応援する

北海道内179市町村のすべての地域から新たな挑戦に取り組む人が出てくる世界を目指している。「どうせやっても無理」「お金が無い」などの物理的弊害や精神的なブレーキをかけることなく、まずはやってみようという気概や風土をつくるツールとして、クラウドファンディングに気軽に挑戦してもらえるように取り組んでいる。北海道のクラウドファンディングサービスだからこそ挑戦者に徹底的に伴走して支援することにこだわっている。

プロジェクト



熱気球をあげて別海の空の思い出を 子どもたちに贈りたい！プロジェクト

新型コロナウイルスの影響で様々なイベントが中止になっている中、「子どもたちに熱気球を通して最高の思い出を作ってあげたい！」という思いで別海町の地元住民が立ち上げたプロジェクト。プロジェクトの目標金額を達成し、2022年1月8日、別海町の牧草地上空に地元親子らを乗せた熱気球が上がった。



北海道179市町村応援大使と ジモトートのコラボレーションプロジェクト

北海道日本ハムファイターズの「北海道179市町村応援大使」の活動と北海道の各市町村の特徴をカッコよくデザインしプリントした「JIMOTOTE」（ジモトート）のコラボレーションプロジェクト。ファンディングが成功した市町村で、オリジナルのトートバッグが商品化されている。



北海道の飲食業界応援プロジェクト

新型コロナウイルスの影響で来店者が激減した北海道の飲食店を応援するために立ち上がったプロジェクト。支援者は募金またはプロジェクト参加店舗で使える食事券を購入する形のクラウドファンディングで、道内446店舗が参加し、15,410,900円の支援金が集まった。



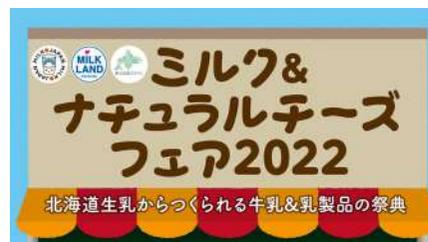
子ども向けワークショップ実施

一般財団法人さっぽろ産業振興財団主催の小学5、6年生向けオンラインセミナーに協力、「You Tuber になろう」というテーマのセミナーで、You Tuber になるための資金集めとして「クラウドファンディング」を活用するポイントを伝え、起業や会社の仕組みに興味をもってもらう講座を行った。



食の北海道遺産プロジェクト

「北海道の『銘店の味』を未来に残したい」という思いから、アイビック食品株式会社、株式会社サッポロドラッグストア、株式会社トリプルワンの3社が立ち上げたプロジェクト。ACT NOW ではプロジェクトから生まれた新商品を提供するクラウドファンディングを行った。



ミルク & ナチュラルチーズフェア2022

多くの方に、北海道の酪農業が生み出す乳製品の数々を知っていただくために、2021年から実施している北海道チーズ工房応援クラウドファンディング企画。道内各地から33の工房が参加し、支援金のリターンとしてオリジナルセットを提供している。

釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz



事業者の悩みに徹底伴走!地域内外とのビジネスマッチングも!

釧路市は、域内循環や外から稼ぐ力の強化などの考え方を基本とし、より幅広く“まち”と“ひと”がつながりを強めて力を結集していく「域内連携」に取り組む。この一環として、2010年度から継続的に連携を深めてきた「富士市産業支援センター f-Biz」をモデルに「釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz」を2018年度に開設。k-Bizでは、事業者が抱える「売上が伸び悩んでいる」「新商品・新サービスを開発したい」「効率的な情報発信の仕方がわからない」などのあらゆる悩みを、徹底的な伴走によりサポート。開設以来、事業者からの相談に多数対応。そのため、経営相談員は地域の事業者情報を多く有しており、地域内外の事業者を結びつけるビジネスマッチングも行う。



企業名 | 釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz 創業 | 2018年8月

所在地 | 北海道釧路市 WEB | <https://www.kushiro-biz.net/>

主な事業 | ビジネスサポート、ビジネスマッチング

お問い合わせ先 | 釧路市産業振興部商業労政課

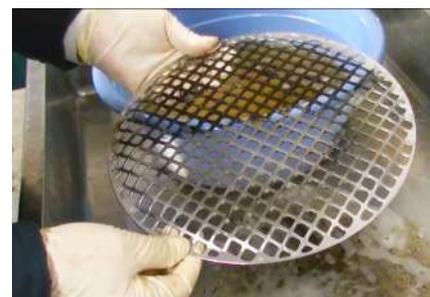


プロジェクト



「食べる米ぬか「ぬかっこ」の 販路拡大サポート

米屋きちべい「ぬかっこ」は乾燥粉末状に加工した米ぬかで、様々な食品に混ぜて食べられる。類似商品との差別化のため、食卓に常備できる缶の容器とセットで販売することを提案。また腸活ブームに注目し、女性をターゲットにしたパッケージに変更することを提案。売上が大きく増加した。



業務用コゲ洗浄剤 「ブラックバスター」の営業方法提案

鈴木商産がコゲに強い洗浄剤を開発。実際に使用した店舗の「作業時間が減った」というレビューに注目し、「洗浄時間の短縮」により人手不足解消につながる商品として営業することを提案。「洗浄剤による働き方改革」を掲げ訴求した結果、売上げが3倍に。大手飲食チェーン店での採用も決定。



「旨でしたらこ Premium」の 新商品開発・販売サポート

釧路海洋フーズは、たらこを出汁に漬けこんだ「旨でしたらこ」を販売。たらこは一般的に製造後に冷凍保存され、スーパーなどで解凍後販売されているが、たらこにも出来たての美味しさがあるということから、非冷凍商品の製造所での直販を提案し、販売に向けてサポート。ご当地でしか味わえない風味豊かな「旨でしたらこ Premium」として人気商品となっている。



新商品「たらまんま」の開発サポート

魚の加工販売を行うカネイチ丸橋は、丁寧な下ごしらえ技術が強み。子供に安全で美味しく、親と同じものを食べさせたいという子育て世代の声に注目し、普段の食事と離乳食のどちらにも使える加工品の開発を提案。完成した「たらまんま」はPRのためのクラウドファンディングを実施し、目標額を上回る支援が集まった。



サテライトオフィス北見

企業名 | サテライトオフィス北見 創業 | 2017年6月1日 所在地 | 北海道北見市

主な事業 | サテライトオフィス北見の運営、IT企業及びIT人材の誘致、起業家育成、ビジネスマッチング、ICT産業創出、U・Iターン支援など

WEB | <https://hatarabu-kitami.com/house/> お問い合わせ先 | 北見市商工観光部工業振興課 工業係長 松本 武

オホーツクの大自然と都市機能を併せ持つテレワーク拠点

北見市ではふるさとテレワーク推進事業をきっかけとして、2017年に中心商店街の空き店舗を活用し、テレワーク拠点「サテライトオフィス北見」を開業。テレビ会議室や占有席スペースを完備したテレワーク拠点としての機能はもとより、市内外のテレワーカーの交流拠点、ICT人材の育成拠点、企業のビジネスマッチング拠点として幅広く利用の促進を図っており、現在では年間延べ3,500人ほどが利用している。2022年からは、テレワークスペースを拡充し、一人用の防音会議室を増設。簡易的な宿泊機能も併設し、ワーケーションやお試し移住などに適した職住一体型の施設となり、オホーツクの大自然と都市機能を併せ持つ北見市ならではの魅力あるテレワーク環境を提供する。

※ 2022年3月7日より株式会社アイエンターが運営する「KITAMI BASE (キタミベース)」として、リニューアルオープン



プロジェクト



ハッカソン in 北見

北見市に進出したIT企業が主体となり、北見工業大学の学生を対象とした「ハッカソン in 北見」を開催。学生は複数人でチームを構成し、企業のエンジニアがメンターとして参加。学生への技術サポートを行いながら、2日間でアプリの実装を目指す。近年では約50人の学生が参加し、アイデアとIT技術を競っている。



帰省型テレワーク

将来的なU・Iターンの促進や、北見市のテレワーク環境のPRを目的に首都圏で働くオホーツク出身者を対象にお盆やお正月などの帰省ラッシュ時にテレワークを体験を実施。本社と変わらない仕事ができるテレワークで、帰省ラッシュのピークを避け、帰省の日にも伸ばせるという柔軟な働き方を体験してもらった。



子供向けプログラミング教室

発達段階の子供たちがプログラミングなどを体験することで、将来の高度ICT人材としての素地の構築及び資質の発掘を図ることを目的に、市内の小中学生を対象としてプログラミング教室を実施。地元企業のほか、首都圏のIT企業に勤務する北見出身者と連携しながら、プログラミング教育の実施体制を構築した。



ふるさとインターンシップ

首都圏や札幌など市外の大学等に進学しているオホーツク出身の学生を対象に、市内のIT企業でインターンシップを実施。首都圏と変わらない仕事ができる「テレワーク」という新しい働き方を体験していただくことにより、若者の雇用の場の確保及び地域経済の活性化を図ることを目的とした。

一般社団法人ドット道東



点がつながる。道東の、あたらしい輪郭になる。

道東各地の情報やネットワークを活かしたクリエイティブや事業開発を手掛ける一般社団法人ドット道東。道東内外のクリエイター約40名と協業し、広域のネットワークを活かしたブランディングや情報発信の伴走支援をおこなう。道東のアンオフィシャルガイドブック「.doto」は自社制作・流通にも関わらず初版5000部が1ヶ月で完売、現在は1万部を発行。日本地域コンテンツ大賞にて、地方創生部門最優秀賞（内閣府地方創生推進事務局長賞）を受賞。2021年には株式会社No Company社が提供するSNSデータから見る「学生の注目企業2021」にて最も学生が話題にした企業200社に選出されるなど、北海道内外問わずメディア掲載実績多数。

代表理事

中西 拓郎

北海道北見市生まれ、北見市在住。2012年に北見市Uターンした後、市内デザイン会社勤務を経て、2014年独立。リトルプレスMagazine1988を創刊。2019年ドット道東代表理事就任。ローカルメディア運営他、編集・プロデュースなど。幅広く道東を繋ぐ仕事を手がける。



理想を実現できる道東にする

広大なエリアに町と人が点在する地域だからこそ、コミュニティや商圈が限られてしまう。理想を実現しやすくするという環境は道東で豊かに暮らしていくため、生き方の選択肢を増やすということ。道東において、町や地域を越境した広域のアイデンティティとネットワークを築くことで、「道東だからできる」「道東でしかできない」ということを増やすための伴走支援をおこなっている。

プロジェクト



道東のアンオフィシャルガイドブック「.doto」

道東各地で培った情報とネットワークを一冊に凝縮したガイドブック。自社流通ながら初版5000部が約1ヶ月で完売、1万部を発行。全国のタウン誌・WEB・動画などあらゆるコンテンツを表彰するアワード「日本地域コンテンツ大賞」にて「地方創生部門最優秀賞（内閣府地方創生推進事務局局長賞）」を受賞した。



道東ではたらく

「.doto」発行後、移住やUターンの相談が数多く寄せられたことから、道東のはたらく情報と人材のマッチングを目的とした情報発信メディア「#道東ではたらく」をリリース。実際の業務や企業紹介に加え、地域環境やコミュニティも包括的に紹介。道東のエンゲージメントが高い層へアプローチしている。



CAMPFIRE パートナーシップ

自社プロジェクトで3件・流通総額 1000万円超や支援プロジェクトでの実績が評価され、クラウドファンディングプラットフォーム「CAMPFIRE」パートナーシップ契約を締結。ドット道東が持つ道東内のネットワークを活用し、地域のプロジェクトの企画・マーケティング・情報発信の支援をおこなっている。

地域

道東

北海道の東・道東地域は面積が31,053km²と九州よりも少しだけ小さく（九州36,780km²）、人口は約91万人と広大なエリアに町や人が点在している。釧路・十勝・オホーツク・根室と大きく4つのエリアに分けられる道東地域は、それぞれの地域で気候や作物も異なるため、広大な土地に多様な文化が根付いている。

企業概要



企業名 | 一般社団法人ドット道東 創業 | 2019年
 所在地 | 北海道北見市 従業員 | 5名(役員含む)
 主な事業 | ブランディング・情報発信
 WEB | <https://dotdoto.com/>



沿革

- 2018年3月 道東誘致大作戦 ※法人設立前プロジェクト
- 2018年8月 脳天直撃学校祭 ※法人設立前プロジェクト
- 2019年5月 一般社団法人ドット道東設立
- 2019年9月 道東のアンオフィシャルガイドブック「.doto」クラウドファンディング開始
- 2020年6月 道東のアンオフィシャルガイドブック「.doto」出版

令和3年度地域・企業共生型ビジネス取組事例集

ひがし北海道インターローカルプレイヤーズブック

～越境し、創造する地域の付加価値～

令和3年度地域・企業共生型ビジネス取組事例集の作成及びフォーラム開催に係る請負業務

発行：北海道経済産業局総務企画部企画調査課

Tel:011-709-1775

<http://www.hkd.meti.go.jp/>

制作：一般社団法人ドット道東